

未来

郵政産業ユニオン
PIWU

全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙 「みらい」
NO. 4147
21年5月7日(金)
Tel・Fax 095-828-1953

コロナ禍での 第92回メーデー

おはようございます。

二年目を迎えるコロナ禍でのゴールデンウィークでしたが、皆さんはどのように過ごされましたか？

自粛で行動も制限される中で、うれしいニュースがありました。

日本郵政グループ女子陸上部に所属している、長崎県長崎商業高校出身の廣中璃梨佳（ひろなかりりか）選手が、5月3日の東京五輪代表選考会を兼ねた日本選手権1万メートルで優勝して、陸上女子の長崎県勢で初めての五輪代表に決まりました。

長崎での郵政関係の全国的ニュースと言えば、住吉郵便局の元局長が10億円にもなる搾取事件が報道されたばかりです。そんな時、この廣中選手の快挙は長崎県民そ

して郵政関係者に大きな希望を与えてくれました。「すべてをお客様のために」これは信頼回復へ向けての会社のキャッチフレーズですが、不祥事が後を絶たない会社には綺麗ごとばかりではなく、本気で取り組んでほしいと思います。



約1000年にもなるのに郵政の職場を見ても要員不足による超勤ありきの業務運行。非正規や新一般職の待遇を考えるとほんとに環境は良くなつたのでしょうか。今なおメーデー開催する理由はどこにあると思います。

第92回メーデー

メーデーは、合衆国カナダを中心とした「8時間労働制」を求め、1886年5月1日、低賃金と悲惨な労働環境、1日10時間以上に及ぶ長時間労働に抗議して行ったゼネストが始まりました。日本では1920年に第1回が開催され長崎でも1927年から開催されています。

長崎地区でのメーデー

支部は地区労メーデー（規模縮小の上で開催）と長崎県労連メーデー（オンラインでの開催）に参加しました。支部からも7名が参加した長崎地区労メーデーは、午前9時より長崎駅近くの五島町公園で開催。例年の3分の1ほどの人数に制限して約300人が参加（主催者発表）しました。地区労議長や来

賓者が挨拶。メーデー宣言では、コロナ禍だからこそメーデーの歴史、意義について再確認すると同時に、安心して働き、生き続けられる社会をめざして、労働者の団結と連帯の力で、さらに闘いを強めることで宣言を採択。団結ガンバローで集会を閉じたのちにデモ行進を行いました。



最後は団結ガンバローで閉じました。オンラインという新しい形でのメーデーで、支部のたたかいをアピールすることが出来ました。



7日から聖火リレーが始まります。県庁から水辺の森公園までは航路の予定です。復元された遣唐使船が運びますが、コロナ感染急拡大で予定通り実施されるかわからない状況です。停泊中の遣唐使船も不安に見えます。

期間雇用パート労働者の皆さん！ 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。
1集-海江田, 2集-向井, 3集-山田, 支部・分会の役員へ。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。 期間雇用社員、希望者全員、正社員化を。 めげせ、均等待遇、なごう差別！ ユニオンは労基法裁判に勝利するぞ！